

## 利根川

### 1 はじめに

利根川は、その源を群馬県利根郡みなかみ町の大水上山(標高1,831m)に発し、千葉県銚子市において太平洋に注ぐ、流域面積がわが国最大の河川です。

利根川は古くから日本一の河川という意味を込め「坂東太郎」と呼ばれ人々に親しまれてきました。高密度に発展した首都圏を氾濫区域に抱え、日本の政治・経済・文化を支える重要な河川であるとともに、特に利根川下流部においては広大な河川敷にヨシ原や湿地・干潟など豊かな自然環境が保たれており、多様な生息環境のもと、希少な動植物が生息・生育・繁殖しています。

利根川下流河川事務所では、利根川本川の河口から上流約86kmの区間と支川の小貝川、手賀川及び横利根川など一部の区間を管理しています。また、全国的にも珍しい流況調整河川として北千葉導水路を管理しており、首都圏の水需要に対応すべく、利根川下流部から江戸川を結ぶ導水路によって都市用水の供給を行っています。



写真1 利根川河口部【左手:千葉県銚子市】

### 2 安全な暮らしを支える川づくり

利根川は、過去に幾度となく大きな洪水で氾濫し、多くの被害をもたらしてきました。利根川の下流部においても、人口や資産が集中する市街地と住宅や水田などの広大な低地が広がり、ひとたび大洪水に襲われると甚大な被害が想定されます。利根川下流部の河口に近い左右岸には、いまだ堤防の無い無堤部区間があり、近年の洪水でもたびたび家屋の浸水被害が発生しています。このため、河川の整備として、新たに堤防を造る築堤工事と、洪水を安全に流下させるために河道断面を確保する浚渫工事が実施されています。

また、利根川の下流域には、本川と支川の合流点に水門や排水機場など、多くの大規模な河川管理施設が整備されていますが、その多くは老朽化が進行しているため、補修・更新なども重要な課題となり、計画かつ効率的な維持管理を進めています。

### 3 人と自然にやさしい川づくり

利根川下流域は、広大なヨシ原や干潟・水路網が広がる独特の「水郷景観」が特徴であり、ここには、多様な自然環境のもと、希少な動植物が生息しています。しかし、近年、高水敷の乾燥化による外来種の侵入や干潟・湿地などの面積が減少し、希少な動植物の生育環境が失われつつあります。このため、河川改修事業の実施にあたっては、定期的なモニタリングを行い、整備の効果や維持管理の状況を監視しつつ、今後の事業に反映しています。

また、改変してしまった環境を、多様で豊かな自然に回復するために、「利根川下流部自然再生事業」として湿地再生・ワンドの整備等が取り組まれ、美しく雄大な利根川の自然環境を保全・再生し、未来へ引き継ぐ努力がなされています。

#### 4 豊かな暮らしを支える利根川

利根川の水は古くから農業用水を主体として利用されてきました。高度成長期以降、特に首都圏における急激な人口増加や産業の発達に伴い都市用水の需要が増加し、利根川の水は人々の暮らしに欠かせない役割を担っています。北千葉導水路は、利根川の水が豊富な時に江戸川に水を送ることにより、安定した都市用水の供給を可能にするとともに、手賀川流域の内水排除や手賀沼の水質浄化の役割を担っています。

#### 5 地域を災害から守り・備える

##### 〈河川防災ステーション〉

利根川下流部においては、洪水時の水防活動の拠点となる河川防災ステーションの整備を行っており、災害発生時の緊急復旧作業に必要な土砂・砕石や根固めブロックなどの緊急用資材を備蓄しているほか、ヘリポートや水防活動に必要な作業スペースを確保しています。東日本大震災時にも地震による堤防の崩壊箇所の復旧工事に備蓄土砂が利用され、速やかな復旧に活用されました。また、平常時には地域の人々のレクリエーションの場や、河川を中心とした文化活動や防災に関する情報の発信の拠点として活用されています。

##### 〈樋管等の津波対策〉

東北地方太平洋沖地震による津波は、利根川河口部にも来襲し、そのまま利根川の河道を遡上して周辺地域に浸水被害をもたらしました。利根川の河口付近における堤内地側の河川や水路等の堤防横断箇所に設置されている樋管(堤防を貫通する水路のこと)についても、津波の遡上による逆流を防止するため、ゲートの遠隔・自動操作化及び監視設備の整備が行われています。

#### 6 当時の歴史を今に残し・守る

利根川の改修の歴史は古く、明治33年に内務省土木監督所笹川工営所(現千葉県香取市)が設置され、近代の治水工事が始まりました。銚子市観音境内には利根川や江戸川の河川整備に必要となる水位表記の基となった水準原標である飯沼水準原標石があります。飯沼水準原標石は、明治5年(1872)に明治政府の招聘により来日したドールン(C.J.Van Doorn)を代表とするオランダ人技師団の一人、リンド(Isaac Anne Lindo)により設置されました。飯沼水準原標石は「日本における河川測量の原点」や「日本水準原点設置の原点」となっています。



写真2 飯沼観音境内の飯沼水準原標石

#### 7 おわりに

利根川下流河川事務所では、地域の安全・安心の確保と、豊かな自然環境の保全・再生を目指すと共に地域に愛される川づくりを目指し、関係自治体や地域の人々と連携を図り、「坂東太郎」利根川下流を後世に誇れる河川の整備、保全に努めます。